

BSEリスクプロファイル

項目	内容
リスク評価の対象	
ハザード(危害要因)	BSEプリオン
対象食品	牛肉、牛内臓
対象国	輸入実績のある13ヶ国(米国、カナダを除く) (オーストラリア、ニュージーランド、メキシコ、チリ、バヌアツ、パナマ、 コスタリカ、ノルウェー、ハンガリー、ニカラグア、ブラジル、中国、 アルゼンチン)
食品の汚染経路	<ul style="list-style-type: none"> ・感染牛のSRMの利用、又は交差汚染により飼料が汚染 ・BSEプリオンに汚染された飼料を食べた牛が感染 ・さらに食肉処理工程において牛肉が汚染
食品の汚染リスク要因	<ul style="list-style-type: none"> ・肉骨粉等の輸入、レンダリング、飼料規制(生体牛リスク) ・と畜処理プロセス(食肉リスク)
公衆衛生上の問題点	
惹起される疾病	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)
感受性人口	日本に居住する全ての人
疾病の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・潜伏期間(数年～25年以上とされる)、発症最少量は不明。 ・発症頻度は極めて低いと考えられるが、致死率は極めて高い。
患者数	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で201名。(2007年2月6日現在) ・そのうち英国が165名。日本では1名(英国渡航歴あり)。
既存のリスク管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の国内規制(各国により異なる) ・日本への輸入については、家畜衛生条件、SRM輸入自粛指導等のリスク管理措置
BSE発生状況	<ul style="list-style-type: none"> ・対象国における発生は報告されていない ・日本では32頭確認
リスク評価を行う必要性	・リスクレベルが不明。社会的関心が高い(不安がある)。
リスク評価の目標 (想定される質問)	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国に輸入される牛肉・牛内臓の食品として摂取することによる食品健康影響(リスク)を評価すること (結果例;無視できる/不明である等)
不足している情報	<ul style="list-style-type: none"> ・食肉処理プロセス等の食肉・内臓の評価に関する情報 ・対象国に対して調査を行う必要がある
リスク評価事例	・EFSAのステータス評価(GBR)、OIEのステータス評価等、国際的なリスク評価事例